

「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」役員名簿

任期：平成29年4月1日～平成31年3月31日

※副会長（香川大学長）任期：平成29年10月1日～平成31年3月31日

※副会長（高知大学長）任期：平成30年4月1日～平成31年3月31日

※監事任期：平成30年4月1日～平成31年3月31日

（平成30年4月1日現在）

会 長 大 橋 裕 一 愛媛大学長

副 会 長 野 地 澄 晴 徳島大学長

副 会 長 寛 善 行 ※ 香川大学長

副 会 長 櫻 井 克 年 ※ 高知大学長

監 事 田 村 禎 通 ※ 徳島文理大学・
徳島文理大学短期大学部学長

監 事 濱 中 俊 一 高知工業高等専門学校長

企画・実施統括者 小 林 直 人 愛媛大学学長特別補佐
教育・学生支援機構 教育企画室長

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)設立10周年記念講演会

日時：平成30年3月29日（木）14：30～15：00

会場：愛媛大学総合情報メディアセンター1階メディアホール

演題：SPODの活用及び今後のSPODに期待すること

（講演者略歴紹介）

ホビノ・サンミゲル（聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部 学長）

マドリッドドミニコ会聖トマス総合大学大学院哲学研究科修士課程哲学専攻，同大学院神学研究科修士課程神学専攻及び上智大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻修了。学校法人愛光学園中学・高等学校教諭，同学園理事長，聖カタリナ女子大学専任講師，英知大学文学部教授を経て，2001年4月より現職。主な著書は，単著『オルテガ／イ／ガセットにおける人生論』創風社（2013年）。

——SPOD設立10周年記念講演会開始——

小林企画・実施統括者：

ただいまから，SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）設立10周年の記念講演会を開催させていただきます。まず始めに，会長，愛媛大学の大橋学長より趣旨説明と講師紹介をお願いいたします。

大橋会長：

愛媛大学学長の大橋でございます。講師の略歴紹介の前に少し御挨拶をさせていただきたいと思えます。このSPODですが，先程からのくり返しになりますけれども，平成20年度に文部科学省の戦略的大学連携支援事業に採択されまして，3年間補助金を受けました。その後，平成23年度から，ここにお越しの皆様方，加盟校の分担金による自主運営体制に切り替わりまして，この度めでたく10周年を迎えることができました。この10周年を記念しまして，本日は聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部学長のホビノ・サンミゲル先生をお招きしています。先生は，SPODの設立当初から学長を務めておられまして，このSPODを大いに御活用いただいています。

今日は，SPODの活用及び今後のSPODに期待することということで，お話を伺えると聞いておりま

す。

先生の御学歴を簡単に御紹介させていただきますと，マドリッドドミニコ会聖トマス総合大学大学院哲学研究科の修士課程哲学専攻，さらには神学研究科神学専攻，そして上智大学大学院文学研究科修士課程哲学専攻，これらを修了されまして，その後愛媛県にございます学校法人愛光学園理事長，それから聖カタリナ女子大学専任講師，英知大学文学部教授などを経まして，2001年4月から現職にお就きでございます。

今日のお話は，われわれの今後，SPODの方向性を占う貴重なお話だと考えております。サンミゲル学長，是非よろしく願ひいたします。

（拍手）

サンミゲル学長：

皆さん，こんにちは。SPODが設立されて今年で10周年を迎えました。先程御紹介がありましたが，私は学長になってから17年になります。ですから今日の講演では，この17年間のさかのぼって，少しずつ自分の経験を取り入れてお話ししたいと思います。

まず，パワーポイントを簡単に作りましたが，最初から最後までフォローしていければと思います。私はスペイン人ですので，よく使っておりますが，

「The Union make force」(団結は力になる)ということです。また2つの大学が、今度一緒に加盟されることになりましたので、本当に歓迎したいと思います。学校法人加計学園岡山理科大学獣医学部、それから学校法人河原学園人間環境大学松山看護学部ですね。本当にこれから力を合わせて、SPODを広く発展させていければと思います。

次は簡単に、私達の大学と短期大学部を紹介したいと思います。私が学長になった時には社会福祉学部社会福祉学科しかありませんでした。その時ちょうど大学にはいろんな問題がありまして、それからまた福祉もちょっと人気が下がっていて、やはり大きな改革、変化をしなければなりません。現在は、社会福祉学部を改編して人間健康福祉学部という新しい学部を設置しました。学科としては社会福祉学科に社会福祉専攻、介護福祉専攻があります。それから人間社会学科と健康スポーツ学科があります。そして今年度新設した看護学科ですね。松山市駅キャンパスにあります。キャンパスは2つあります。北条キャンパスと、松山市駅キャンパスです。北条キャンパスは今治と松山の間にあるキャンパスです。瀬戸内海のすぐそばです。松山市駅キャンパスは松山市駅から歩いて2分のところにあります。それから北条キャンパスには短期大学部があります。短期大学部も改革しまして、保育学科のみ残っています。瀬戸内海のすぐそばですのですごく海も近いし、自然に恵まれています。ここは学部も短期大学部もあります。去年、短期大学部は創立50周年を祝いました。大学は30周年、まだ若いのでこれからだと思います。パワーポイントをご覧ください。これは松山のキャンパスですね。松山市駅キャンパス。看護学科。それから、北条キャンパス内には特別養護老人ホームがあります。これは大学の実習施設としてあります。看護学科の学生はこちらでも実習できるということですけれども、私たちは松山赤十字病院とも連携しており、学生はそこへずっと実習に行っております。

これから「聖カタリナ大学のFD委員会の運営と権限」というテーマに入りますね。実際、私がこの

FDの活動を始めたのは、平成17年度からです。9月からですね。それには理由がありました。まだFDが義務化になっていなかったんですけれども、私たちはやはり大学を変えないといけなかったという時代でした。結局福祉だけではもう学生も集まりません。今でも大変ですけれども、もう大きな改革をしないといけなかったんですね。

その準備としては、やはり、まず改革。私学は学生が来なければ運営できません。と言いますのも、文部科学省の事業団から頂いている補助金はだいたい12~13%ぐらいですね。もう、国立学校と全然違います。だから多くの収入はやはり授業料などです。でもやはり学生たちは余裕がありませんから、愛媛県では授業料をそんなに高くすることはできません。それに、全部改革するとなると、全て教授会にかけないといけなかったんです。教授会で反対されると何もできませんでした。そのため、私は早くFD委員会をつくって、学長を委員長に、そして決定機関にしました。「そこで決めれば決まる。だから教授会に報告だけします。」ということで、改革を進めたということです。

そうして改革を進めながら、もちろん将来計画委員会もつくり、それも決定機関にしました。今でも生かしております。はっきり言えば、反対した先生もメンバーに入れました。やはり直接意見を聞きたかったんです。その活動はそこから始まり、短期大学部と合同会議で、決定機関として運営してきたんです。

次は、大学・短期大学部教員のFD/SPOD参加ですね。私たちはSPODの設置当初、10年前から参加してきたのですが、ただ私たちはその前にFDとSDを分けていました。まずは、これからFDについて少し話したいと思います。平成23年度から継続的にSPODの様々なプログラムに参加しているということです。原則として、参加の有無はもちろん私たちのFDの会議で決めます。そこで決定すればSPODの研修に参加しないといけません。

まず決めましたのは、新任教員は全員新任研修に参加しなければならないということです。これは義

務ということです。もう一つ決めたのが、2年の間に1回、みんなプログラムに参加しなければならないということです。プログラムの中で好きなテーマを選んで参加するということです。平成27年度から平成28年度の間に、42名が参加しました。

それから学内の研修。これも大学のFD委員会で決めましたけれども、平成26年度から平成27年度にかけて義務化にしました。全員参加しなければなりません。やはりそうでないと一部は参加していませんでしたけれども、とにかく全員参加してくださいということです。スライドにも書いていますけれども、学内の研修は短期大学部も全員参加、大学と短期大学部は一緒に参加するということです。平成29年度は39名参加、平成27年度・平成28年度の時にも46名参加しています。

それから、大学と短期大学部のSD運営。私たちはSD活動も早く始めました。なぜかという、私の考えとしては私学の場合、やはり大学の財産は教職員です。教員だけではなく、教職員です。お金はないかもしれませんが、でもこの良い職員、良い教員を持っていれば、これは大きな財産です。だから投資しなければならないということで、SDの活動も早く始めました。

本学はSD委員会の設置は平成22年度からです。この会議も大学内で開いて、議長は、事務局長にしております。そこで出した結論は学長に報告して、学長が決定する。これも決定機関にしました。このFDとSDの委員会は、大学と短期大学部の合同で行っています。だから、まず良い教員、良い事務職員。ただ私たちは、FDは教員、SDは事務職員で分けてきました。今SPODで一緒になっておりますけれども、大学内ではまだ別々に会議を開いています。

平成29年度、SD大学内外研修参加についてですね。去年からはSDが義務化になりました。学内のSD研修会は、夏の研修会には16名、冬期研修会には20名の教員が参加しています。事務職員は学内SD研修会に全員参加です。教員は「FD委員会で決めて何人か参加してください」とか、それも名前を指定することもあります。

大学外では、様々なプログラムを選んで参加しております。

大学・短期大学部事務職員SPODプログラムとの取り組みについてです。愛媛大学で行うSPODフォーラムには、事務職員は参加をしなければなりません。それも、学内の会議で決まっています。それから基礎プログラムにも、積極的に参加を勧めている。もう何人かが参加しております。

やはり事務職員は大学にとって、特に私学にとっては、すごく大切な存在です。なぜかといいますと、私学では教員はよく替わります。私が来た時にも、いろんな意見があり、改革しようと思ったら、「じゃあ反対」、あくる日は辞めてしまいましたね、ある先生は。だから大学の発展を考えていません。自分のことしか考えていないですね。ですから、私たちにとっては難しいのです。

私たちドミニコ会は、800年の歴史があります。800年の歴史の間に5大陸に広がり、今では各大陸に大学や教育機関が何千もあります。例えばアジアでは、聖トマス大学がありますね。フィリピンのマニラにある、アジアで一番古い大学です。もう400年の歴史があります。1つのキャンパスだけで4万3,000人います。全部で6万人ぐらいです。

だから私たちは、今いる先生の考えだけに基づいて大学をつくるのが難しいのです。ところが、事務職員は本当に大学を愛してくれています。卒業生も多い。先生が辞めても自分たちはずっと我慢してすごく働く。だから私たちは、大事にしたいですね。それと、やはり私の考えとしては、できれば教授ぐらいの資格を持っていれば、もう最高だと思います。大学の存続のためを考えたら。ですから、それで大事にしているということです。

幸いに、SPODにリーダーのプログラム「次世代リーダー養成ゼミナール」がありましたので、そこでリーダーをつくりましょうということで、本学からは、今まで6名参加してまして、今年度は1人修了しました。この事務職員は、本当に若いです。今年度終わったら、この職員は4月から係長へ昇任となります。3名はもう課長。あと2人は課長補佐。

できれば皆リーダーになってほしいですね。しっかりとそのコースを受けてほしいですし、これからも続けていきたいと思います。

SPOD の活用の優れた点。やはり私たちは小さい大学ですので、この SPOD の存在は、私たちをすごく助けてくれています。なぜかという、やはり私学の教職員は替わるか、替わらなければ入ってから定年まで、定年するまでに何年間もずっといないといけないですね。だから、他の国立大学や他の国とか世界との交流など、機会は少ないんです。もう忙しくて、あまり行き来できませんから。

ところが今、SPODのおかげで、国公立大学、私立大学、また高等専門学校との交流ができているということが、私たちにとってすごく優れた点だと思います。お互いに考えの交換ができるし、交流ができるし、学問についてもいろんな研究とかいろんなアイデアも含めた交流もできます。それから経験ですね。経験もお互いに伝えることができるんじゃないかと思います。

それから、新任教員の養成ですね。場合によっては大学の修士が終わってすぐ来ます。だから経験もないし、教え方もあまり分からないし。ただ研修に出れば、いろいろなスキルなど、知識を習得することができるということですね。

それからやはり教員と事務職員の能力開発と、教育における資質向上の機会。大きな機会ですね。県外または四国以外に行かなくても、こちらでその教育の資質向上の機会を獲得することができるということがすごく良い点だと思います。

それから小さい大学のサポートですね。先日新聞に、これから国立大学と私立大学が合併できるというようなことが掲載されていました。前には国立同士で合併とか出来たんですけども、今度、私立学校も含めてしてくださいというようなことが、この間新聞へ出たんですけども、「してください」というのは、「できる」ということですね。ですから私たちにとって、やはり大きな大学と一緒に何かいろんな事業やいろんなことをやっていけば、その強さも感じるということですね。だから、SPODがあるこ

とで私たちはすごく助かっています。

あとは、経済的な面でも。私たちの大学は、学内研修は毎年やりましょうと FD 委員会で決めてやってきたんです。SPODができるまで、すごく有名な講師も呼びました。すごくお金がかかりますね。でもこの SPOD の中ですれば、もう安いんです。経済的に安いということになりますね。だからその研修を受けるチャンスもあるということです。今うちの大学の教職員は意識して参加していますので、本当にみんな良い気持ちで参加しているという話を聞いています。

では将来、今後の SPOD に期待することについてです。まず、さっきもリーダーについて話しましたが、やはり大学院にしたらいいんじゃないかなと思います。どこかの大学でこのリーダーコースを取り入れたら、いいんじゃないか。おそらく四国からだけではなく、全国からたくさん来るんじゃないかなと思います。すごくいいコースだと思います。

あとは、やはり将来も、教職員の養成を続けてほしいということです。これは良いことだと思います。

次に、社会はどんどん変化していきます。だから、学問もすごく進歩しています。今日勉強していることは、明日もう役に立たないということになります。

それもありますので、私も年を取ってずっと 40 年以上教育に関わっていますが、いろんな大学にいましたので、持っている専門をほとんど使っていますね。でも、同じことをずっと何十年も教えている、昔は良かったんですけども、そういう先生もいますね。だからそれは学問も変わっていますから、場合によっては合わないんです。自分で教えていることと今の学問は、ちょっと違う。もし研究していなければ、もう時代遅れになってしまいますね。

学生も、今いろんな情報が入っていますから。

学生時代、私はヨーロッパ、スペインにいました。そこでは、学生の革命、学生運動がありましたけれども、その時代です。私たちは先生方を困らせるために、みんなでその授業のテーマを決めて、いろんな雑誌を読んで、それで先生に質問をします。「先生、この雑誌に載っているこれ、どう思いますか。」先生

は読んでいなかったんです、全然。先生を困らせて、そうしたら授業ができないから、もう疲れてしまうという。「もっといい先生を入れてください」という時代ですね。

ですから、私たちはとにかくやはり、自分の持っている知識、学問などを、もう常に手直ししないと授業ができない。これは私も先生方によく言いますが、研究しない先生は授業ができない。いい授業ができない。というのが、もう古いことを教えるだけでは、今は通らないということですね。私たちの大学は人文学だけですから、だからそんな授業もする可能性があります。ですから SPOD は、先生のリフレッシュのために、それからいろいろな新しい知識を伝えるためにも、やはり必要だと思います。

また、教える方法。教え方も、変わってきました。私は長い間教えてきて、まさか今新たにパワーポイントを使うとは、ということですね。そのテクニックを習わないといけない。でも変わっていけば、まだやれる。いろんな先生は、これだけではなくて、インターネットとつないで授業をやっていくとか、タブレットも出てくるとか変わっています。そして、アクティブラーニングの方法もあります。それも、変わってきました。結局その技術も、これから SPOD で教えてあげたらいいと思います。やはり若い先生はうまいかもしれないけれども、私のような場合には習わないといけないですね。それも必要だと思います。

それから、最後になりますけれども、できれば同じテーマ、同じ授業であれば、もう共有、交流ですね。例えば愛媛大学。うちの大学にもある授業が、法律関係とか何か、ありますよね。その先生が、2～3 回行って授業をする。逆にまた他の大学、愛媛大学にうちの先生が来て、教えるとか。それも、そのシステムを何かこう、もっと密接な交流をすればいいんじゃないかなと思いますね。

それから共同研究もそうですね。今もやっていると思いますけれども、SPOD でもプログラムを作って、あるテーマについて共同研究もすることができるとのことですね。これから社会はどんどん変わ

っていきますので、教育のあり方、または教育の内容も変わっていきますから、その知識、知恵を、SPOD を通じて、事務職員だけではなくて教員にも与えればと思います。

もう時間になりましたので、これで。ただ、今少子高齢化で、社会は変わっていきますし、私たちも変わっていかなければならないと思います。

以上で終わります。ありがとうございます。

(拍手)

小林企画・実施統括者：

ありがとうございました。それでは以上をもちまして、SPOD（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク）設立 10 周年記念講演会を終了させていただきます。

平成30年度
四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
活動報告書

平成31年3月 発行

発行 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク
(事務局：愛媛大学教育学生支援部教育企画課)
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
TEL 089-927-9154
FAX 089-927-8100
E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp
ホームページ <https://www.spod.ehime-u.ac.jp/>
印刷 株式会社ハラプレックス



SPOD